

## 2019年「わが研究」を振り返る

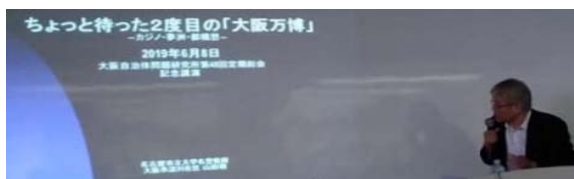
今年も毎朝、こうしてレポートを書いてきた。大晦日の朝、私なりに1年の「まとめ」を研究面からしておきたい。名古屋から大阪に転居して2年。大阪の地に根を張りつつあるが、研究面でもすこし歩みはじめた。

まずは、京都で毎月開催されている二つの研究会である。ひとつは国家経済研究会で、「現代社会資本論」出版にむけた調査研究、都市と社会資本の執筆である。途中からの参加だが、この歳になっても力不足を痛感することが多かった。

もう一つは宮本憲一先生と若い仲間とのゼミである。じっくり古典を読むだけでなく、地方自治や環境問題なども議論してきた。宮本先生から学ぶことが多いが、私も積極的に報告やコメントをしてきた。研究会に参加して、元気と刺激、やる気ももらっている。宮本先生と研究会メンバーに感謝したい。

次に、大阪の当面する問題について発信し、いくつか論文を書いてきた。2025年に大阪湾の人工島・夢洲で開催予定の大阪万博について、2005年愛知万博の経験も活かしながら発言してきた。

2月23日に大阪を知り・考える会で、大阪万博の「夢」と現実と題して講演した。6月8日には大阪自治体問題研究所総会で、ちょっと待った2度目の「大阪万博」～カジノ・夢洲・都構想と題して記念講演した。これらの講演で、大阪万博はまだ「仮免許」であり、リスクの多い夢洲での開催に警鐘を鳴らした。



夢洲での万博・カジノについては、環境団体や市民団体の皆さんと一緒に活動した。多くの人と交流の輪が広がってきた。環境団体のワークショップなどに参加して、何回かパブリックコメントを提出してきた。大阪万博の環境アセスメント「方法書」に対する意見をとりまとめた。愛知万博の環境アセスメントに意見する市民の会の活動を思い出す。



春の大阪府知事・市長のダブル選や統一選での維新圧勝にショックをうけ、大阪「都」構想という名の大阪市廃止の動き注目し警戒するようになった。法定協議会が6月21日に再開されたが、12月26日まで8回連続して傍聴してきた。毎回、怒りを膨張させて傍聴して、「傍聴記」を書いてきた。写真下は11月27日にエルおおさかで開催された「府民のつどい」で、緊張しながらコメントした時のものだ。

こうして1年を振り返ると、歩みはのろいが、研究面でも大阪の地に根を張ってきたと思う。朝早く起きてレポートを書いてきたことが、研究面にも役立っている。

(2019年12月31日)